

ふれあいビオトープ（旧工学部ビオトープ）の観察

（おもに両生類と生き物）

フィールド科学系部門 生物科学班

宇都 武司

はじめに

理学研究科附属両生類研究施設で飼育しているカエルの繁殖時期や生態を比較する為、定期的に両生類が繁殖している場所を観察しています。そのときにふれあいビオトープで見かける両生類と生き物を紹介します。

ビオトープの一年は、ニホンアカガエルの

産卵で始まります。

年の初めの観察は、ニホンアカガエルの卵塊が無いことを確かめて回ります。ビオトープのニホンアカガエルは1月の中ごろから気の早いカエルが産卵し始め2月の前半に産卵のピークを迎えます。毎年200個前後の卵塊を数えます。

産卵期間中、影が出ない曇り空で、足音が消える程度の風が吹いているときにゆっくりと近づけば、間近で観察することができます。鳴き声は、ささやく程度の大きさです。

6月上旬ごろからオタマジャクシが変態して子蛙になります。

関連写真 1. 2.

声はすれども姿は見えず。

3月になると、暖かい日にはシュレーゲルアオガエルが鳴き始めます。シュレーゲルアオガエルの鳴き声は耳に立つので20mほど、離れてもよくわかります。でも鳴き声の近くに来ると鳴きやみ、どんなに目を凝らしてもなかなか見つけられません。なぜなら大体は土の中に潜って鳴いているからです。ジャンプ力が弱いので蛇などから隠れるためだと思いますが、狭い所で鳴いてうるさくないのでしょうか、それとも

エコーがかかっていい感じなのでしょうか。見つけ方としては、鳴き声がするところを少し離れた場所から見当をつけ、それらしい所を掘ればよいそうですが、それらしい所がまだよく分かりません。精進したいと思います。

7月上旬ごろからオタマジャクシが変態して子蛙になります。

関連写真 3. 4. 11.

との。

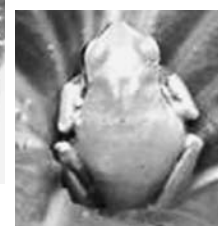
なかなか見かけませんが、忘れた頃にひょっこり出てきてアピールしてくるトノサマガエルです。しかも年季の入った成熟個体です。トノサマガエルらしいオタマジャクシも見かけるときがありますが、まだ変態したての子蛙を見かけません。そのうち出会うことを楽しみにしています。

関連写真 5. 6.

特定外来生物。

ウシガエルもいます。去年変態した個体だと思われるので捕まえたら駆除したいと思います。

関連写真 左下。



げっ げっ げっ げっ げっ げっ げっ げっ。

ニホンアマガエル（関連写真 右上。）はまだ見かけませんが、総合科学部と角脇川との間

で鳴き声を聞いたことがあります。

年中無休.

ビオトープのアカハライモリは、水中の落ち葉などの下に隠れており一年中見つけることができます。寒い時期に捕まえられるのは、だいたい若いオスです。ひょっとしたらメスがいつ来るのかわからず、気長に待ち続けているのかもしれない。

卵は2mm程度でゼリー状のものにくるまれており、1個ずつ柏餅のように水草の葉っぱで包みます。産みたては白餡入りの葛まんじゅうといったところでしょうか、7月から9月ごろまで見かけます。

ビオトープで遊ぼうの参加者方が採取したアカハライモリ、30匹の中に尻尾の上側に個体識別のような複数の切れ込みがある個体が数匹いました。はたして人間が付けたものでしょうか、アメリカザリガニが付けたものでしょうか。

関連写真 7. 8.

しましまとか、くろとか.

4月になると、日のあたる所にシマヘビが陣取っています。他の蛇に比べるとあまり逃げないので遭遇率が高いです。そして気温の低い春先は動きが鈍いのでなおさら出合います。シマヘビは鎌首を持ち上げたり、しっぽを細かく震わせたりと芸が細かいので遭遇するとからかいたくなりますが、あまり怒らせると追いかけてくるのでやりすぎには注意しましょう。ビオトープでは、しましま・しましま・くろ・しましま・くろと、たてつづけに見かけたことがあります。くろの動きが若干よかったのは温まりやすかったからでしょうか。

関連写真 9. 10. 11.

庭に住み着いて、手をたたくと

エサをくれるものと思い駆け寄って来ていました。

ニホンイシガメは角脇川の方でよく見かけま

すが、たまに川から上がってきて、ビオトープの中を歩き回っているようです。春の遭遇率が高いです。夏はあまりみかけません、冬は冬眠しているはずなのでみかけません。

関連写真 12.

環境指標生物.

去年、全国モニター1000里山講習会でカヤネズミの講習を受けたので、東広島キャンパス内で巣を見つけるため、あちこちうろうろとして野犬ばかりに遭遇していましたが、今年は方針を変えて、一昨年に巣のあった角脇川沿いを中心に観察していました。しかし想定外にもビオトープと工学部間の赤松林で巣が見つかり、それ以降、目視のみだったのを改めレクチャーのとおり1mほどの細い棒を持って、それらしい草藪をそっと掻き分けて回ったところ、ビオトープ内にも巣を2個発見でき、赤松林と合わせて8個の巣を確認しました。

関連写真 13. 14. 15.

手袋越しに手を挟まれてみます.

サワガニは夜行性なので、昼間はあまり見かけませんが石の隙間に手を突っ込んでみると居ます。

関連写真 16.

足元注意、柿の種.

6月になると、ちいさな赤い色が気になります。ハッチョウトンボです。大きさはおつまみの柿の種を、ひとまわり小さくしたぐらいです。日当たりのよい日ほどたくさんいます。ビオトープの水際だけでなく周辺の草地や土手など草丈の低い所にもいます。通り道にも普通にいたりしますから、踏み潰さないように注意しましょう。

関連写真 17. 18.

忍び寄る アザリー.

今年のビオトープで遊ぼうにおいて、アメリカザリガニの子供が80匹ほど見つかり、ビオトープ生態系への影響が懸念されます。

関連写真 下.



おまけ.

台風4号の前日に捕まえました。見たことがなく最初は変わったジャコウアゲハとと思っていましたが、調べてみるとベニモンアゲハでした。

関連写真 右上.



ふれあいビオトープ (旧工学部ビオトープ).

生態系が豊かなのはふれあいビオトープになる前の工学部ビオトープのときから、里山の赤松林をふくめて季節ごとにしっかりと手が入り管理されているからだと思います。

関連写真 全部.

広島大学総合博物館との連携により、ふれあいビオトープにも以前より多くの方が訪れるようになったからでしょうか、水路と水田跡間の通り道が染み出した水でぐずぐずになってきました。カエルにはあまり影響は無いですが、ビオトープに来る人達の為に、どうにかしなければなりません。



1. ニホンアカガエル



2. 卵塊の前でメスが来るのを待ち受けているオス



3. シュレーゲルアオガエル



4. 土の中で鳴いているオスを掘り出した所



5. トノサマガエル オス



6. トノサマガエル メス



7. アカハライモリ



8. アカハライモリの腹側



9. シマヘビ (しましま)



10. シマヘビ (くろ)



11. シマヘビがシュレーゲルアオガエルを捕食中
シュレーゲルアオガエルは肺を膨らませて
飲み込まれないように抵抗中



12. イシガメ



13. カヤネズミの巣



14. カヤネズミの巣 となりの三ヵ月後



15. ふれあいビオトープのカヤネズミの巣



16. サワガニ



17. ハッチョウトンボ オス



18. ハッチョウトンボ メス